

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	学校、地域行事の参加等自由な外出、関わりを多くする事により「生きる喜びを与えてくれたあなたに有難う」の理念をもとに1人ひとりの生活リズムを大切に考え、その人らしく生きていく事を少しだけ手助けをして生活して頂いている。	○	ホームの中だけで、生活するのではなく地域の一員として生活できる様、更に支援を広げていきたい。外での活動の機会を多く作っていきたい。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	採用時には、必ず理念を伝え理解してもらっている。また休憩室には理念を張りだし日々確認できるようにしている。ユニット会議においては理念はもとより、良いケアができるよう話し合いを持ち意見の統一を図っている。		日々の接し方、声掛け、記録等において理念を反映させるよう努めている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には、訪問時やおりに触れ繰り返し伝えている。ホームの便りの活用もしている。2ヵ月に一度の運営推進会議に家族の方にも参加して頂き、意見や要望を聞いて今後の支援に繋げている。		ご家族、地域の方に参加して頂く運営推進会議で理念を理解して頂けるよう取り組んでいる。ホームへの訪問時は、日常の様子と対応を伝えホームへの理解につなげている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に買い物や散歩に出かけるなど地域の方達と触れ合う機会を作っている。また、近隣の保育所、小学校にも出向き交流を深めている。	○	運動会の観戦や学習発表会に出向いている。子供達と芋掘りをしたり、市民会館に、民謡大会を観に行っている。しかし、町内会の活動に参加する機会がないが、今後話し合いをもち、ホームの行事への参加等も呼びかけていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	保育所、小学校と定期的に交流をもち行事に参加したり、ホームへも訪問して貰い、交流を深めている。ボランティアや実習生を受け入れ、開かれたホームを目指している。	○	地域との関わりは、まだ不十分であるが町内会や老人会へも働きかけて進めていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	相談を受けたり、見学に来て頂いたり地域の町内会、老人クラブで講演をしたり出来る中で取り組んでいる。	○	今後は更に気軽に相談に来て頂いたり、認知症への理解を深めてもらえる様、機会を見つけて取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行ない、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はユニット会議にて報告し、意見交換をして改善に繋げる為の努力をしている。		評価を実践するにあたり、意義と狙いについて運営者・管理者・職員で取り組んでいると同時に実践されているかを確認している。実践出来ない場合は理由を探り検証している。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居状況や行事、事故などを報告し話し合いを持っている。参加のご家族も増え質問については真摯に答え、頂いた意見をサービス向上につなげている。		申し送りやユニット会議の中で話し合っている。事業所からの報告、参加メンバーからの質問、意見、要望を受け双方向的な会議となるよう配慮している、家族からの要望、意見をサービス向上に活かしている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市からの依頼には積極的に協力し、相互理解を深めサービスの向上に努めている。	○	市と連携し相互理解を深める事で認知症の方々とその家族の利益になるよう繋げていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度については理解している職員もいるが、全員が理解している訳ではないので今後勉強会や研修会への参加をしていきたい。	○	学習機会や、説明などに取り組んではいるが、理解していないスタッフは個別には説明していく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	管理者会議の中で定期的に身体拘束廃止委員会を持ち、虐待への意識を高めスタッフとはユニット会議の中で話し合い1人1人の意識の向上に努めている		高齢者虐待防止法を学び、職員間で常に確認している。何が拘束になるのか具体例をあげ周知徹底している、2ヶ月に一度の勉強会を実施している。精神的拘束については日々確認している。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には必ず契約書、重要事項説明書を渡し、十分に説明し不安、疑問点があればそれに答え、理解、納得の上で契約している。		契約時には入居者さん・ご家族等の聞きたい事を入居者の立場に立ち、将来の事も含めて疑問等を引き出し、それらに対して十分な説明をしている。不安に対しても十分な説明をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんの言葉や態度から、思いを察する努力をし、入居者さんの本位の運営を心がけている。その時々が入居者さんの不安、意見等はユニットで都度話し合いを行ない、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。	○	入居者さん本人が苦情や不満を言いやすく働きかけている。思いを上手く言い表せない入居者に対しては思いを探ったりしている。苦情や不満は速やかに対処して全職員で検討、周知徹底し対処している。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	日常の暮らしぶりについては、訪問時やおりにふれ伝えている。受診の結果はその都度お知らせしている。また異常時には直ぐに伝え合意のうえ対処している。預り金については月末に領収書と共に明細を知らせている。月末には代表者、管理者、スタッフが1ヵ月の様子を知らせる手紙を各家族に送っている。		ホームページを作り日常生活を具体的に知っていただけるようにしている。又、普段の生活ぶりを写真に残しホールに貼り出している。ホームの行事への参加を呼びかけている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には手紙や訪問時、常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。出された意見、要望等はユニットで話し合い、反映させている。又、ご意見箱を設置している。第三者機関を設け苦情の受け付けと相談窓口であることを伝え理解していただいている。		何時でもどんな事でも言って頂ける様、ご家族に働きかけている。疑問点についても直ぐに返答出来る様にしている。全職員が入居者さんのニーズ、ご家族の思いを把握できる事を第一に考えている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や朝、夕の申し送り、日常の業務の中で対話する時間を設けスタッフからの提案を受け入れ反映させている。又、日頃からコミュニケーションを図れるよう心がけ、問い掛けたり、聞き出したりしてはる。		職員が意見を言いやすくする配慮や機会を作っている。事業所にとって大事な事「入居者さんの受け入れ」「職員交代」「運営方法」等を報告している。意見を反映し、質の向上に繋げている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフの勤務はゆったりしたものとなっている。散歩や会話は一対一が可能な勤務状況となっている。柔軟な勤務体制となっており緊急時にも十分な対応が可能である。	○	24時間本人を支えるローテーションを組んでいる。ニーズや生活時間に合わせた体制が取れる人員の配置をしている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	信頼関係を作る為に馴染みの関係を大切に考えているが、異動や離職、新規採用がある際にはダメージを最小限に抑える努力をしている。両ユニットの交流をし、ユニットの異なるスタッフとも馴染みの関係になるよう配慮している。	○	安心した暮らしを送っていただく為にも馴染みの職員が支える体制を取っている。入居者さんが両ユニットのスタッフに気軽に声を掛けられる関係を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所外の研修や学習会に多くの、職員が参加出来るようにしている。研修報告は、会議の中で発表したり、回覧したりして職員全員が周知できる方法を取っている。また、一年間の個人目標を掲げ、三ヶ月毎に評価をし管理者との面談を持ち育成に繋げている。</p>	<p>日常的に学ぶ機会を持っている。研修内容をユニット間で検討し日常の業務に役立てる事が出来るよう指導している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内に連絡会があり、他のグループホームとの相互研修・事例検討や意見、経験をケアに活かしている。また、グループホーム広域連合会の研修を活用し、市内だけではなく他市町村の同業者との交流も深めている。</p>	<p>○</p> <p>管理者だけでなく、職員が、同業者の交流機会にも参加して、職員育成に役立てている。実践的な交流会の機会を増やすようにしている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常業務の中や面談をして、悩みや疑問を聴き把握する様にしている。ストレスの要因に気を配り職員同士の人間関係を、把握している。</p>	<p>管理者は職員の話をよく聴き各自のストレスを把握している。職員が一息入れる休憩の場所や時間が思うように取れない時があるが、管理者、職員間で話し合い、時間の調整を図り工夫している。また、親睦会も実施している。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>代表者も現場に来ており、入居者さんと過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握するよう努力している。職員の資格取得に向けた支援を行ない、取得後は努力や実績の評価をし、本人の意向を尊重しながら職場内で活かせる環境作りに努めている。</p>	<p>○</p> <p>職員の健康状態はケアの有り方に大きな影響与えかねないので疲労感を溜めないようにしている。各自のストレスを把握し相談に乗っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面接で生活状況・健康状態の把握・ご本人の求めている事・不安の理解をしてサービスの利用の相談にあたっている。必ずご本人に会い、ご本人に向き合い想いを知り職員へも周知し、入居後の穏やかな生活に繋げている。</p>	<p>ご本人の思いや不安を受け入れ、安心して頂く事から始めている。何を求め、何が大切か、恐れている事は何か、苦しんでいる事、困っている事を把握する事により信頼関係を作っていくようにしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が求めている事に、事業所としての対応を事前に伝えている。これまでの経緯「ご家族の苦勞・サービスの利用状況」等をゆっくり聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>初めての相談の時、利用を前提に話を勧めず、ご家族にとって今何に困っているか、ニーズは何なのか等十分に聴き、ご家族の困っている事とご本人の意思と区別し相談を受けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時本人や家族の思い、状況を把握し、話し合いを繰り返す中で信頼関係を築き、改善に向けた支援、早急かつ柔軟な対応をして、市の福祉課、地域包括センターや他の事業所に繋げている。		困っていることや相談事に関して方策を考え、地域包括センターや地域のケアマネジャーと連携している。また、入居待ちのご家族には月に一度入居状況をお知らせするとともに、入居希望の方の状況、家族の悩み等も聞き相談を受けている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂いたり、ケアマネが自宅へ伺ったり、デイサービス利用時にご本人の様子を見に行ったりしている。またサービス提供者から話を聞いたりしてご本人の状況を詳しく知り、スタッフ全員で情報の共有をして入居後の対応に備えている。		ご本人が納得の上の入居は難しいが、心理的な不安を抱えることが無いように十分配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来ることはして頂き、出来ない所を支える対応を基本とし、ご本人の不安、苦しみ、喜び等を知ることにより、分かち合い共に支える関係、人生の先輩であるという考えを共有し入居者さんに教えていただいたりする場面も大切にしている。		職員は入居者さんと共に生活すると考え、常に感謝の念を持ち接している。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの様子や職員の思いを伝えることにより、本人を支える為の協力関係を作り上げている。情報共有により家族と同じ思いで本人を支えていく関係にある。		常に本人中心で考えご家族の思い・苦しみ・哀しみ、これまでの介護の事を共有してより良い支援を考えている。また認知症への理解を深めていただける様、話し合いを持っている。日々の状況を伝えている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人に対する家族の想いを大切に考えている。ご本人が安心して生活される事が家族にとって一番安心する事と考えている。ご本人を中心とした家族の関係を大切に考え一緒にご本人を支えていくことを基本としている。		ご家族には認知症を理解していただく事がご本人にとのより良い関係作りに繋がると思われる。ホームでの暮らしを伝え、関わる機会を作っている。催し物への参加して頂くことにより、同じ時間を共有し、新しい発見をして頂いて認知症への理解を深めていただけるよう対応している。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の行きたい場所に同行し馴染みの関係が途切れない様支援している。入居前のかかりつけ医院への受診継続、美容院等の利用をしている。訪問面会はいつでも受け入れ、制限はしていない。		本人を取り巻く人間関係を把握している。ホームに入所されていても生活環境線上的であるように、知人に会ったり、手紙、電話での継続の支援をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいる事も含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さん同士の関係を把握しているが、状況によって関係も変化するため催し物、レク、お茶の時間や行事等利用しスタッフも中に入り関わりが深まるよう支援している。		集団の中で入居者さんに配慮し、入居者さんが孤立しないような支援、助け合い、支えあいを引き出し、入居者さん同士の関係や個性を上手く生かす配慮をしている。個人の生活リズムを第1に考えている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された後も、ご家族等に連絡を取ったり、近況を聞くなど、関係を断ち切らない対応をしている。		やむをえず退所された場合も移転先の紹介などの支援もした。入院により退去された後も定期的にお見舞いに行っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から言葉や表情のなかから把握に努めたり、真意を推し量っている。それとなく確認したり、意思疎通が困難な方は、普段の関わりや、ミーティング等で情報を得、また、家族や関係者から情報を得ている。ご本人にとって何が最良なのかを家族を交えて話し合っている。		本人がどこでどのようにして暮らしたいのかを理解する為に関わりを持って思いを探っている。言葉にしづらい場合は、日々の行動や表情から汲み取っている。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人及び、家族から聞き取りをし、出来る限りの情報を集めスタッフと共有している。入居前のサービス利用についても、可能である場合はサービス提供者から情報を得ている。又、本人自身の語りに耳を傾け、少しずつ把握に努めている。		個々の入居者さんについて、生活歴やライフスタイル・価値観の把握をしている。家族に小さな事柄でも情報を伝えてもらい本人の全体像を汲み取っている。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活日誌、連絡ノート、朝、夕の申し送り、モニタリング、ユニット会議等で本人の一日の過ごし方、生活リズム、心身状態を把握し持っている力、出来ない事の把握をしている。持っている力を発揮していただく場の設定、出来ない事への支援につなげている。		個々の一日の生活リズムを把握している。(食事・睡眠・生活習慣・体調の変化) 家族や関係者による出来ないという事にとらわれず、出来る事・分かる力を本人の生活や全体像から把握している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中で、思いを聴きアセスメントを含め、職員全体でモニタリング、カンファレンスを開いている。入居者さんが自分らしく暮らせるように課題となる事を、スタッフ全体で話し合い、介護計画作成に役立てている。		個々に添った具体的な計画を作成している。入居者さん主体の暮らしを反映した介護計画になっている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>職員が情報を確認して変化があった時は終了する前であっても検討、見直しをしている。介護計画の遂行状態・効果などを評価し、職員が記録している。状態変化や状況・ご家族・本人の要望に応じて見直しを行なっている。</p>		<p>ケアプランと照らし合わせて、現時点の入居者さんや家族の状況・ニーズ・サービス提供状況とずれている事が無いようにしている。日々検証している。</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別に生活日誌を用意し、ADLや食事・水分量・排泄などや本人の言葉・エピソードを記録している。全ての職員が何時でも確認できる。勤務開始前に確認している。情報の共有を徹底している。個別記録をもとに、介護計画を見直し評価をしている。また、事例レポートの活用などでケアの実践、計画の見直しをしている。</p>		<p>漠然と記録はしていない。気づきや工夫も記入している。又、とくに注目して欲しい事柄などは特記事項に記録し分かりやすくしている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人、ご家族の状況に応じて通院等必要な支援をしている。柔軟支援はもとより家族に対しても相談の窓口を設置をしている。入居者さんが心身ともに安心して生活出来るよう支援している。</p>		<p>入居者さんが安心して暮らして頂く為に必要な支援が出来るよう、柔軟な対応をしている。馴染みの美容院、お寺参り等へ行っている。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>定期的、また不定期のボランティアの訪問がある。市民会館、文化センターなどでの催し物の鑑賞をしたり近隣の小学校、保育所との定期的な交流があり協力しながら支援している。</p>	○	<p>今後も積極的な連携を組んでいく。市政便り等の活用をしている。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>広報誌を活用し入居者さんの興味に応じて外出の機会を持っている。ボランティアの定期的訪問や保育所、小学校との交流もある。要望に応じて出張床屋・美容の利用をしている。</p>		<p>今後も必要に応じて他のサービスを利用する為の支援を検討していく。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括センターの職員が参加している。周辺情報や、支援に関する情報や協力体制を築いている。</p>	○	<p>地域のサービス事業者・関係団体・民生委員によって構成されている人的ネットワーク組織の構築に向けて協働をしている。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいる事も含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の入居前の受診経過、現在の希望を把握し今までのかかりつけ医、希望する医療機関により受診の支援をしている。基本的に職員が代行し、結果をご家族に報告し情報を共有している。</p>		<p>個々の入居前の受診経過、現在の希望を把握し、かかりつけ医や希望する医療機関により受診の支援をしている。受診方法や情報の伝達方法について家族等と話し合い、合意を得ている。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症専門医の受診はしていないが、協力病院に精神科があり、必要に応じて診断等を受けている。</p>		<p>認知症に対する診断・治療の対処方法・情報の伝達方法について、ご家族と話し合い合意されている。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師を配置している。入居者さんの健康管理・バイタルチェックや体調に合わせたチェックをして、職員に対して指導をしている。不在の時は記録をもとに確実な連携を取っている。</p>		<p>入居者さんの普段の状況や疾病を理解している。急な発熱・救急に行くべきか、朝まで様子を見るかの判断と指示を仰いでいる。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院によるダメージを防ぐ為に家族と連携を密にしている。見舞いに行き話をしている。早期退院に向けてホームの受け入れ体制、退院後の注意事項等を医療機関と話し合い支援に繋げている。</p>		<p>病院に対して、本人の普段の状況や特徴等を伝えている。家族や、医療機関と退院に向けて計画を具体的に進めている。受け入れ体制を整えている。退院後の注意事項を職員間で周知徹底している。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴ない、ホームとして出来る事を指針として提示し、対応し得るケアについて、家族に説明している。同意を得た指針については全職員が共有している。家族・看護師を交えて、話し合いを常に行っている。</p>	○	<p>本人や家族の思い「本人にとって、どう向き合ったら良いのか」対応し得る最大の支援方法を踏まえチームで話し合っている。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携を密にしている。安心した最期が迎えられるように、随時家族と話し合っている。急変時は、直ぐに対応して頂ける医療機関とも連携を密にしている。</p>	○	<p>重度化や終末期に対して常に家族と話し合い支援方法を話し合っている。今後職員の力量・諸条件を整え更に取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	○	入居者さんの環境の変化によるダメージを、最小限になるように、関係者の協力を得て取り組んでいる。定期的に面会をしている。入居者さんの情報をスタッフに伝えている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。		人前であからさまに介護したり本人を傷つけない様に、さりげない声掛けや対応に配慮している。他の家族や外来者に本人のプライバシーに関する事は口外しない事を徹底している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	日常生活の中で個々の力に合わせて御本人が決定する場面を作っている。スタッフ主導ではなく、一緒に過ごす時間を持ち、希望・関心を見極めている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	○	入居者さんのしたい事、したい時に合わせている。入居者さん主体を考えた支援をしている。ホームのスケジュールに合わせてはいない。入居者さんのペースで一日の流れを作っている。精神面にも配慮している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		身だしなみはあくまでも、本人の自己決定と捉えている。不十分な時は、さりげなく支援している本人のこだわりと、生活の継続性を保つ為、馴染みの美容室へも出向いていっている。女性入居者には、顔パックやマッサージ等をしている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。		献立作りにも参加して頂き、味見などもして頂いている。季節事の食材も取り入れて、職員と昔話をしながら調理に参加している。入居者さんと同じテーブルで食べている。外食や、ピクニックをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいる事も含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は1人1人の嗜好品を理解している。本人の体調に合わせている。行事の時にはノンアルコールビール等も提供している。	○	入居者さんの体調に合わせて、家族と連携を取り意向に添うようにしている。体調を見ながら、今後は正月などにお神酒程度を用意しようと考えている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	時間や習慣を把握してトイレの排泄を促している。排泄表をつけている。オムツ利用の方に対しては、時間を見てトイレの排泄に向けた取り組みをして、尿意、便意の感覚を失わない支援をしている。	○	「行きたい時にトイレに行く・時間にとらわれない」個々のサインを、全員が把握している。失敗に対して、本人が傷つかない様にさりげなく支援している。オムツ ポータブルトイレ トイレへと段階を踏んだ支援をしている。既にオムツ トイレへと移行された方も居られる。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々のタイミングに合わせている職員の都合に合わせてはいない。ゆっくりと入浴を楽しまれている。入浴により精神の安定も視野に入れている。		朝風呂や夜間風呂も職員のシフトを組替えて取組んでいく事も考えている。入浴を拒まれた方の声掛けの工夫を職員間で、話し合い成功例や失敗例を探り支援に繋げている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の体調や表情に合わせた休息の取り方をしている。寝付けない時は暖かい飲み物を提供したり、側に寄り添い話し相手となり、安心して頂いている。		体調や日中の疲れ具合を見極めて、休息の声掛けをしている。眠れない入居者さんの原因を探っている。個々の体調を見極め昼寝の時間を作っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で力を発揮してもらえるような事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにし、入居者さんの力を発揮出来るような場面を作っている。外出や地域の行事参加等の希望に合わせ支援している。郷土料理の作り方を聞き一緒に作っている。		季節の竹の子の皮を剥いたり、べこ餅やおはぎを作ったりとマンネリにならない工夫をしている。キッチンへと来て食器を洗ったり、片付けをされたりしている。「他に何かする事無いかい？」と職員に声を掛けてくださる。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は、家族と話し合っってホームで管理しているが、外出の際は本人の意向を汲み、小遣いを持ち、お菓子や日用品も買っている。家族と話し合いの上で少量の小遣いを持たれている入居者さんもおられる。	○	入居者さんが、お金を持つてはいけないと言う定義は無い。日用品や欲しい物を、気軽に職員に希望され、買い物に行かれ自分の財布により支払いをして頂く事により、金銭感覚を保って頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいる事も含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分、希望に合わせて買い物、散歩、ドライブへ日常的に出かけている。外食や野外食もして、季節感を肌で感じてもらっている。畑へ行き野菜の間引きをしたり、花々を摘んだり、戸外へ日常的に出ている。	○	ドライブ先で、車より降り、散歩したり季節の花や町並みを見たりして、昔の町並みを思い出したり懐かしんだりしている。歩行困難な方は、車椅子を持ち散歩の支援もしている。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	果物狩りや、桜見物なども、職員の調整をし支援している。家族会を発足した。協力を依頼している。		個々の希望に合わせている。入居者さんや家族と相談しながら実現に向けての努力をしている。絵画展・盆栽展・民謡発表会等、希望に合わせ支援している。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や知人に電話し易い様に気がね無く話ができる場所を用意している。難聴の方の場合には、本人の了解の元、会話の橋渡しをしている。	○	人目を気にせずゆっくりと電話を出来る場所を用意している。本人が手紙を出したくても、身体的に難しい方には代筆をしている。手紙は本人に直接手渡している。年賀状の支援もしている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人が気軽に来やすい雰囲気を作っている。訪問時間は定めていない。遠方から来られる家族の方にも、時間に関係無く訪問して頂いている。		家族や馴染みの方が来られた時遠慮無くゆったり過ごせるようにお茶を一緒に飲んで頂いている。希望があれば、泊まって頂いたり配慮もしている。今後は居室以外でもくつろげるスペースを設けていく事を考えている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を開いたり、共通意識を持っている。自覚していない身体拘束・精神的拘束をしていないか日々確認している。	○	全職員は身体的・精神的拘束によって受ける弊害について理解している。日々点検、理解している。拘束の無いケアをしている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者さんのその日の気分や状態を察知して、外出の気配を感じたらさりげなく同行している。止めるのではなく、さりげない声掛けや寄り添って歩いている。安全面を考慮して見守りの工夫をして、生活時間帯の中では玄関に鍵は掛けていない。	○	日中は玄関の鍵は掛けない、出ていく気配を職員が見落とさない工夫を考えている。地域の方にも理解と協力をお願いしている入居者さんの思いを第一に考え支援している。冬は歩行し易い場所まで車を利用している。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は必ずホールに居り、さりげなく見守り、状況の把握をしている。夜間は時間を決め様子の確認をしたり、体調に合わせて見守りし、状況の把握をしている。起きられた時や、何かあった時は、直ぐに対応できる場所に居る。</p>		<p>昼夜問わず、見守りやすい場所に居て様子を察知している。見守りが出来にくい場所での作業時には、他の職員に声を掛け情報の伝達をして連携を取っている。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>全てを取り除くのではなく、状況に応じて注意を促している。嚴重に保管すべきものや、保管管理が必要な物は、分けて保管したり、場所を決めている。</p>		<p>入居者さんの必要に応じて注意する物品の管理方法を決めている。全てを片付けたり、鍵を掛けたりしていない。入居者さんが、使用を希望される時は、声掛けをしたり、使用法を説明している。包丁などを使われる時は、必ず側で見守りしている。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>個々の予想される危険を考えている。未然に防ぐ為の工夫をしている。日々のヒヤリ、ハットを記録して職員の共通意識を高めている。事故原因を探り速やかに報告し、対処している。</p>	○	<p>入居者さんのADLや体調により予想される事故を職員で検討している。転倒・窒息・誤薬の事故防止の方法を共有、徹底している。報告記録をきちんと整理して保存している。緊急時の対応方法のマニュアルを用意し日々検討している。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急マニュアルを作成し、急変時や事故発生時に備えている。全ての職員がホームでの勉強会に参加出来る様に時間調整をしている。体験・体得・習得する様にしている。緊急時対応のマニュアルを整備し、周知徹底をしている。救命救急の講習を受け応急手当を学んでいる。</p>	○	<p>怪我・骨折・発作・喉詰まり・意識不明等の対処方法、救命救急法の学習や訓練を定期的に行なう。夜間など職員が少ない時の応急処置法や連絡法についても、周知徹底している。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>マニュアルを作成して、年に2回、入居者さんも参加した避難訓練を実施している。消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練を受けている。非常灯等の消防設備の点検を毎日している。</p>		<p>今後地域住民の協力、参加も視野に入れて取り組んでいく事を考えている。消火器や避難経路の確保・定期点検をしている。新職員を雇った際には自主訓練をしている。夜間想定訓練もしている。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>自由な外出により、色々リスクが伴うが、抑制感の無い暮らしにより、表情が明るく生き生きしている。家族の方にも日常を見て頂いたり、リスクに対する説明を具体的にしている。</p>	○	<p>リスクについては、個別に説明している。スタッフ間でも日々確認しあっている。スタッフの危険予知力を高める勉強会もしている。インシデントやアクシデントの要因をホーム全体で探り防止作を話し合っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段の状況を把握している。体調変化が見られたときはバイタルチェックを行ない記録している。状況により、家族了解のもとで受診もしている。些細な変化も見逃さず早期発見に努めている。</p>	<p>常に顔色や様子に注意し、兆候を見落とさない様注意する事を全職員に促している。変化やサイン対応について報告するとともに簡潔に記録し医療等に繋げている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の服薬のファイルを作成している。処方箋のコピーをファイルに整理している。変更があれば直ぐに差し替えている。職員が内容を把握出来る様にしている。服薬時は本人が、飲み終わるまで、側で確認している。処方や用途が変更されたり、状態の変化が見られた時は協力医療機関と連携を取っている。</p>	<p>全職員が薬の内容を理解出来る様に、薬剤の早見表を作っている。用法・用量・副作用についての勉強会を開いている。副作用や体調変化をチェックし、記録し家族や医師に報告して、見直しをしている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>食材の工夫・運動を促している。自然な排便に繋がるように支援している。又、繊維質の多い食材・乳製品・牛乳を取り入れている。排便チェック表を作成しており、排便状況を把握している。</p>	<p>便秘予防の取り組みとして、食事、おやつも含めて、食材やメニューの見直しをしている。下剤や浣腸に頼らず、個々の状態に合わせた支援をしている。オムツ使用の利用者は、トイレでの排泄を声掛け習慣付けをしている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後・就寝前の口腔ケアの促しをしている。磨きが不十分な時はさりげなく支援している。義歯洗浄剤も定期的を使用している。口腔ケアの重要性を全職員が理解している。</p>	<p>○</p> <p>口腔ケアが上手く出来ない方には、側と一緒に歯を磨いたり、仕方を伝えたり手を添えている。個別の習慣や意向を踏まえた支援をしている。義歯の管理・手入れが確実に出来る支援をしている。出来ない方は職員が支援している。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分の摂取利用を毎日チェック表に記録している。個々の体調や疾病に合わせている。医師と相談し体調に合わせたアドバイスを受けている。</p>	<p>○</p> <p>個々の一日の摂取量・残食量を把握している。嗜好を把握し献立に取り入れられたり、肉・魚が嫌いな方には、調理法を変えたりしている。定期的に管理栄養士のアドバイスを受けている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>起こり得る感染症について、マニュアルを作成して全職員で学習し、予防対策をしている。情報収集をして早期の対策をしている。ノロウイルス対策 ペーパータオルを使用している・塩素剤を薄めた液で手摺りやソファを拭いている。</p>	<p>○</p> <p>感染症に対する取り決めが明確にされている。全職員に周知されている。予防対策は、常に知識を収集して変更している。地域の感染発生状況の収集に努め、随時対応している。職員は汚物処理には必ず手袋をはき感染防止をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・布巾は毎晩消毒している。冷蔵庫の点検・清掃・鮮度の確認・調理器具水周りの清潔を保っている。		調理器具の清潔や衛生管理方法について取り決めをして、実行している。予め献立を立てて買い物に行っている。無駄なく使用して冷蔵庫・冷凍庫の食材の点検を頻繁にしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関内にベンチを置き、くつろいだり、靴を履くときに腰掛けたり出来る様に工夫している。玄関前にプランターを置き、入居者さんが代わる代わる水をやっている。季節感を感じる工夫をしている。	○	入居者さんや来訪者の視点で入りやすい工夫をしている。夏の暑い日などは玄関先に椅子を置き涼んだりされている。地域の方が何時でも気軽に立ち寄れるようにしているが、立地条件が難しい所もある。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	湿度・温度を測定し、窓を開け換気するなど心地良い空間作りをしている。ホールの窓からは畑や花壇などが見え季節感が感じ取れている。御飯の炊ける匂い・食器の洗う音・洗濯の石鹸の匂い、冬には鍋料理等、季節感を感じてもらっている。居室に家族子供・孫の写真を飾っている方もいらっしゃる。自分の「家」と思える工夫をしている。		入居者さんにとって使いやすい配慮をしている。壁面に利用者全員で作った作品や季節毎の作品、イベントの写真を展示し観ることで話題にしている。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	階段の踊り場に開設記念に合わせて利用者全員で作成した展示物を飾っている。廊下の一角に椅子を置き、一人で過ごしたり、数人で話ができる憩いの空間を作っている。	○	周りを気にせずに自由な時間を過ごせる場所を作り、ゆったりと過ごされている。気の合う者同士、スタッフなどと話をされている。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の馴染みの物やカーペット・カーテン等にも細やかな配慮をしている。居室に家族の写真を飾ったり、馴染みの日用品も持ち込み居心地の良い配慮をしている。	○	家族と話し合ったり、入居者さんの馴染みの物を持っていただき、安心した生活を送ってもらえる様配慮している。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホールでは、掃除の時間には窓を開けている。定期的に換気をしたり、その日の天気を見ながら都度、換気をしている。暖房は入居者さんや外気温に合わせて調整している。トイレでは換気と消臭剤で悪臭が発生しないよう配慮している。		換気や温度調整は、職員の感覚ではなく、入居者さんの状況や、温度計・湿度計を見ながら調整をしている。冬場は乾燥対策として、濡れタオルを居室に掛けたり、水を張ったバケツなどを置き、乾燥対策をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいる事も含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>身体機能の変化に応じて、生活環境の改善をしている。生活空間で転倒に繋がる原因が無いが常にチェックしている。本人の活動性を維持する為に階段の高さを低くした設計になっている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		<p>混乱や失敗が続く時、活動意欲がスムーズに進む時の状況については、環境面についても注意して探っている。混乱を招く原因「気になる汚れ・紛らわしい表示・同じ形の扉」等に対して補修や工夫をしている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>建物の周りにアプローチを整備した。手引きで外へ行かれたり、農園や花畑へ行き花を摘んだり、収穫をされたりしている。天気の良い日などを見計らって、裏庭にて、お茶や弁当なども食べられている。外気浴を楽しまれている。全員の参加を考えた支援をしている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

私達は日々入居者さんと触れ合う中で「生きる力」を与えられ「生きる喜び」を感じさせていただいております。また、多くの事を学ばさせていただいております。その中で「心」と「心」の繋がりがあって初めて信頼を得る事ができ、側に寄り添い、ゆっくりなづき、お話に耳を傾け、手を握り一緒に笑うことが出来る喜びを感じております。

入居者さんの自由な外出、散歩をしていただくため施錠をしない玄関、また、それを支えるためゆとりあるスタッフを配置しています。入居者さんの生活ペースに合わせた日常生活差を送っていただくためスタッフ都合の支援は行っていません。